

## キヤノンギャラリー見学 - 2014年4月度 ATIS 例会 -

4月16日、4月度の例会が開催されました。今回は、下丸子のキヤノン本社構内にあるキヤノンギャラリーの見学がメインでした。

計54名が参加、4つのグループに別れて見学しました。

まずは、記念写真撮影。54名全体とグループごとに写真を撮っていただきました。全体撮影の写真は下に添付したとおりです。グループごとの写真は、見学後、ひとりひとりにプリントしていただきました。

ギャラリーに入ってまず目に飛び込んできたのが、キヤノンが最初に試作したカメラです(1934年製)。しっかりしたボディのもので、KWANONという文字が刻印されていました。観音様を崇拝していた方が試作したので、「観音」、つまり「KWANON」と刻印したのだそうです。そこから「Canon」という社名が生まれたというのを初めて知りました。

この試作カメラを筆頭に、キヤノン製のカメラが古い順に並んでいます。「オレ、これ使ってた」「懐かし〜い」という声が出てきます。1960年代のカメラは、ATISメンバーにとって「子供時代」を思い出させるとても貴重なものでした。そして1970年代のカメラは学生時代を思い起こさせました。

カメラコーナーでは、最新のカメラに触ることができました。1000万円もする望遠レンズもみました。高度な技術に触れ、ATISメンバーは、だんだん少年の顔になっていきます。

キヤノンが初めて製造した複写機もありました。当時、絶対に逃れられないとされた「ゼロックスの特許網」をかいくぐって製造されたものです。自然に、キヤノン特許軍団の丸島さんの名前が挙がりました。

最後は、バーチャル空間の体験。3台のマシンを恐る恐る覗き、バーチャル映像に驚きます。

続いて、キヤノンが取り組んでいる「綴プロジェクト」のビデオを見せていただきました。

「キヤノンの最新のデジタル技術と伝統工芸の技を融合させ、オリジナルの文化財に限りなく近い高精細複製品を制作することを通し、多くの人に日本の貴重な文化財の価値を身近に感じてもらう取り組み」、すばらしく、そして美しいものでした。スマートジャパンそのものでした。「環境負荷の低減への取り組み」のご紹介もいただきました。

みんな満足感にひたりながら、次のスケジュールに移りました。

会議室に移動して、代表幹事報告、そしてシンポジウムを行ないました。今回のシンポジウムは日鉄住金総研(株)が当番で、活動内容、経営課題について、同社知的財産事業部長の佐近 正氏からプレゼンがありました。多くの質問がなされ、情報交換が行なわれました。メンバー各社にとって、とても有益な情報が得られたと思います。

そして、懇親会。キヤノンプラザ棟で、楽しい談笑が続きました。



ギャラリー見学風景



集合写真